

人権に関する県民意識調査報告書 (概要版)

令和元年 6 月



I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、県民の人権に対する意識や、県民が求めている施策の方向性等について把握し、今後の人権教育・啓発の施策を効果的に推進する上での基礎資料とすることを目的とする。

2 調査項目

- (1) 人権問題について
- (2) 主な人権課題に関する意識について
- (3) 人権擁護に関する啓発活動等について

3 調査の概要

- (1) 調査地域 : 富山県全域
- (2) 調査対象 : 満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 : 2,000 人 (男女各 1,000 人)
- (4) 抽出方法 : 住民基本台帳に基づく層化副次無作為抽出法
- (5) 調査期間 : 平成 30 年 11 月 1 日～11 月 25 日
- (6) 調査方法 : 郵送調査
- (7) 実施機関 : 株式会社ラックス

4 回収結果

標本数 (A)	回収数 (B)	回収率 (B/A)
2,000	1,056	52.8%

5 調査報告書の見方

- (1) 調査結果は百分率で表示した。百分率は小数第 2 位を四捨五入し算出した。従って、合計値が 100% にならない場合がある。
- (2) 図表中に [N] と記してあるのは、分類別各層の対象者総数である。
- (3) 1 つの質問に対して 2 つ以上の回答を求めている設問は【M.A.】(Multiple Answer) と表示し、百分率は、回答数を総回答者数で割った数値である。このとき M.T. (Multiple Total) は回答数の合計を回答者数 (N) で割った比率であり、通常その値は 100% を超える。
- (4) 本報告書の分析の中で参考として用いた資料及びその概要は以下のとおりである。

平成 25 年度 人権に関する県民意識調査 (以下、H25 調査という)

調査地域 : 富山県全域
調査対象 : 富山県に居住する満 20 歳以上の男女
標本数 : 2,000
抽出方法 : 住民基本台帳に基づく層化副次無作為抽出法
調査期間 : 平成 25 年 12 月 14 日～12 月 27 日
調査方法 : 郵送調査法

平成 29 年度 人権擁護に関する世論調査 (以下、H29 内閣府調査という)

調査地域 : 日本全国
調査対象 : 全国 18 歳以上の日本国籍を有する者
標本数 : 3,000
抽出方法 : 層化 2 段無作為抽出法
調査期間 : 平成 29 年 10 月 5 日～10 月 15 日
調査方法 : 調査員による個別面接聴取法

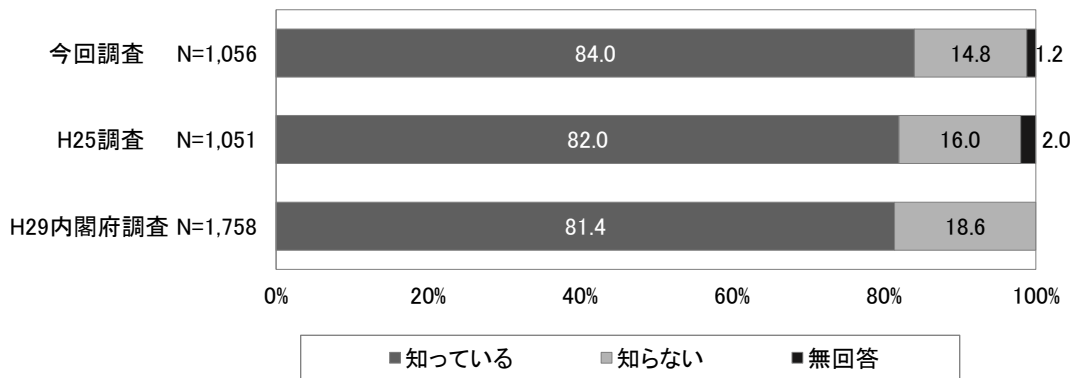
Ⅱ 調査結果

2 人権問題について

(1) 基本的人権についての周知度

【問1】あなたは、基本的人権は侵すことのできない永久の権利として、憲法で保障されていることを知っていますか。

基本的人権についての周知度については、「知っている」が84.0%、「知らない」が14.8%となっている。H25調査と比較すると、「知っている」が2.0ポイント増加している。

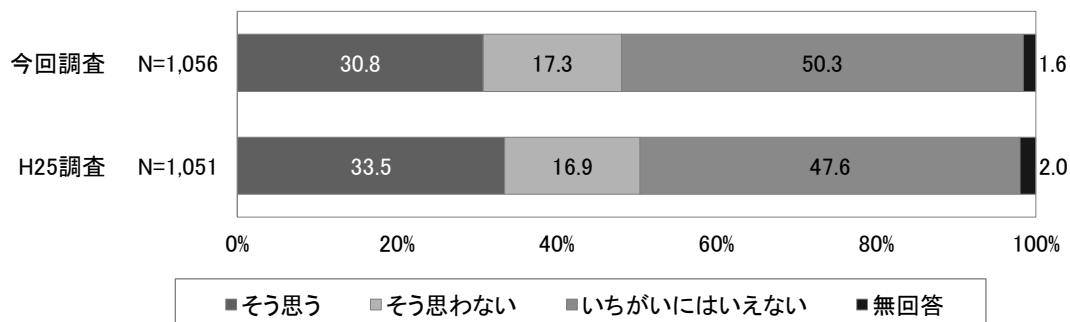


(2) 基本的人権が尊重された社会の実感

【問2】あなたは、今の日本は、基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。

今の日本は、基本的人権が尊重されている社会だと思うかについては、「そう思う」が30.8%、「そう思わない」が17.3%、「いちがいいにはいけない」が50.3%となっている。

H25調査と比較すると、「そう思う」が2.7ポイント減少し、「いちがいいにはいけない」が2.7ポイント増加している。

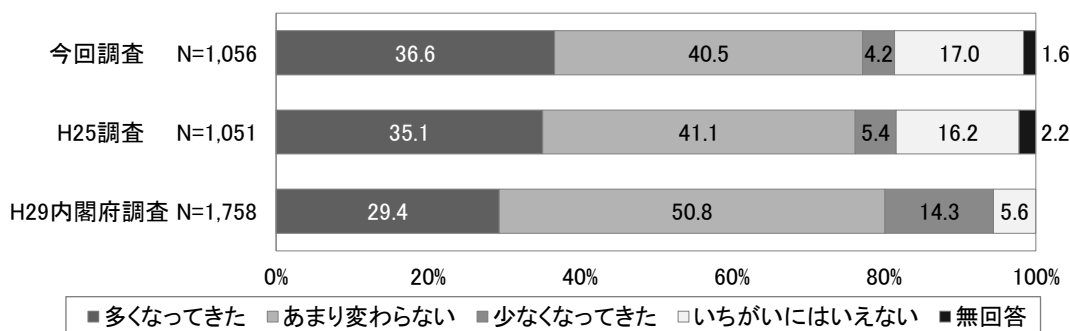


(3) 人権侵害の推移

【問3】新聞、テレビなどで「人権問題」とか「人権が侵害された」というニュースが報道されることがありますが、あなたは、この5～6年の間に、日本で、人権が侵害されるようなことは、多くなってきたと思いますか。

この5～6年の間に、日本で人権が侵害されるようなことが多くなってきたかについては、「多くなってきた」が36.6%、「あまり変わらない」が40.5%、「少なくなってきた」が4.2%、「いちがいいにはいけない」が17.0%となっている。

H25調査と比較すると、大きな差異はみられない。

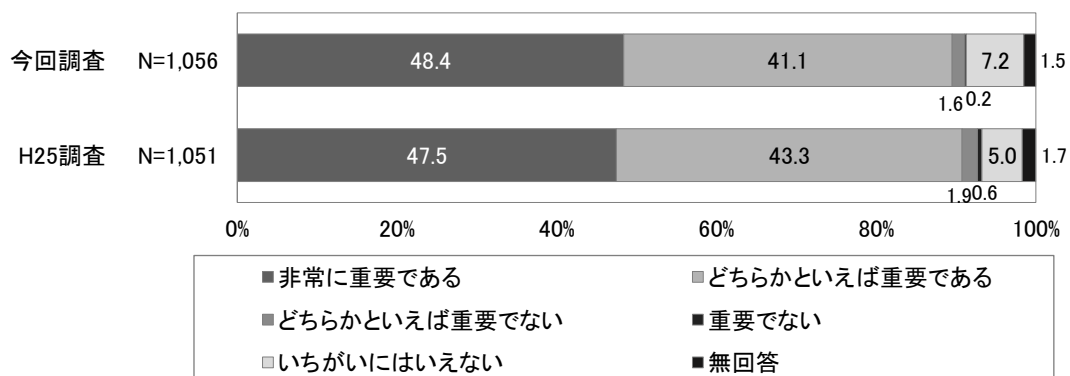


(4) 人権についてのあなたの考え

【問4】「人権」についてあなたの考えに近いものはどれですか。

人権についての考えについては、「重要である」とする割合（「非常に重要である」（48.4%）＋「どちらかといえば重要である」（41.1%））が89.5%と大半を占めており、「どちらかといえば重要でない」が1.6%、「重要でない」が0.2%、「いちがいいにはいけない」が7.2%となっている。

H25調査と比較すると、大きな差異はみられない。



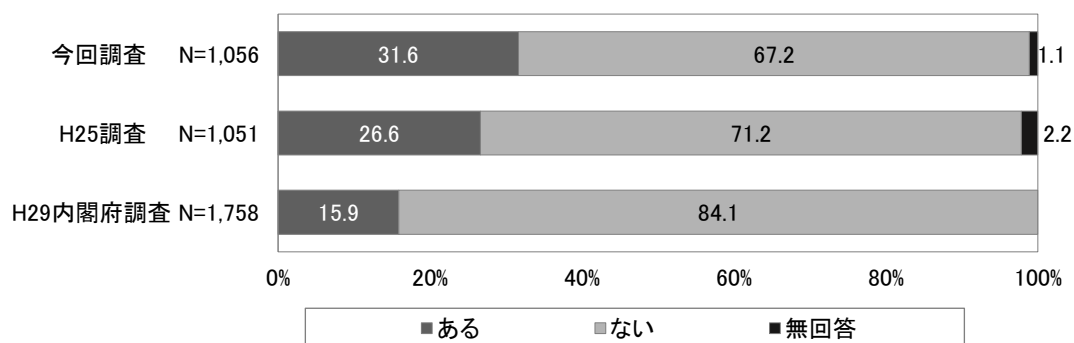
(5) 人権侵害の経験

【問5】あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。それともそういうことはありませんか。

人権侵害の経験については、「ある」が31.6%、「ない」が67.2%となっている。

H25調査と比較すると、「ある」が5.0ポイント増加している。

H29内閣府調査と比較すると、「ある」は15.7ポイント高くなっている。



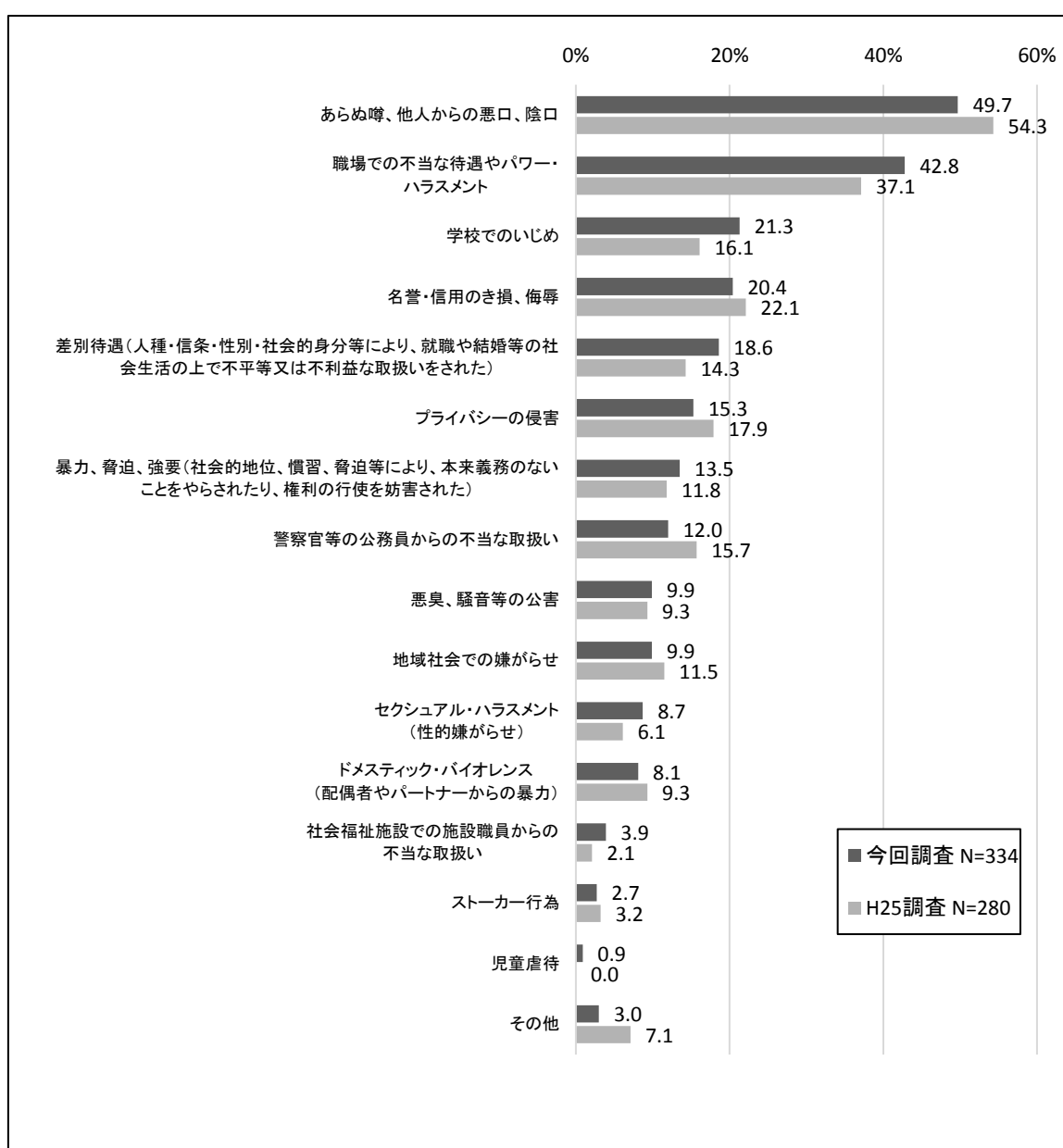
ア 人権侵害の内容

(問5で「1. ある」と答えた方にお聞きします。)

【問5-1】それは、どのような場合ですか。差し支えなければお聞かせください。この中で該当するものを選んでください。

自分の人権が侵害された内容については、「あらぬ噂、他人からの悪口、陰口」が49.7%と最も高く、次いで「職場での不当な待遇やパワー・ハラスメント」が42.8%、「学校でのいじめ」が21.3%となっている。

H25調査と比較すると、「職場での不当な待遇やパワー・ハラスメント」、「学校でのいじめ」、「差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分等により、就職や結婚等の社会生活の上で不平等又は不利益な取扱いをされた)」などは高くなっており、一方で「あらぬ噂、他人からの悪口、陰口」、「名誉・信用のき損、侮辱」、「プライバシーの侵害」などは低くなっている。

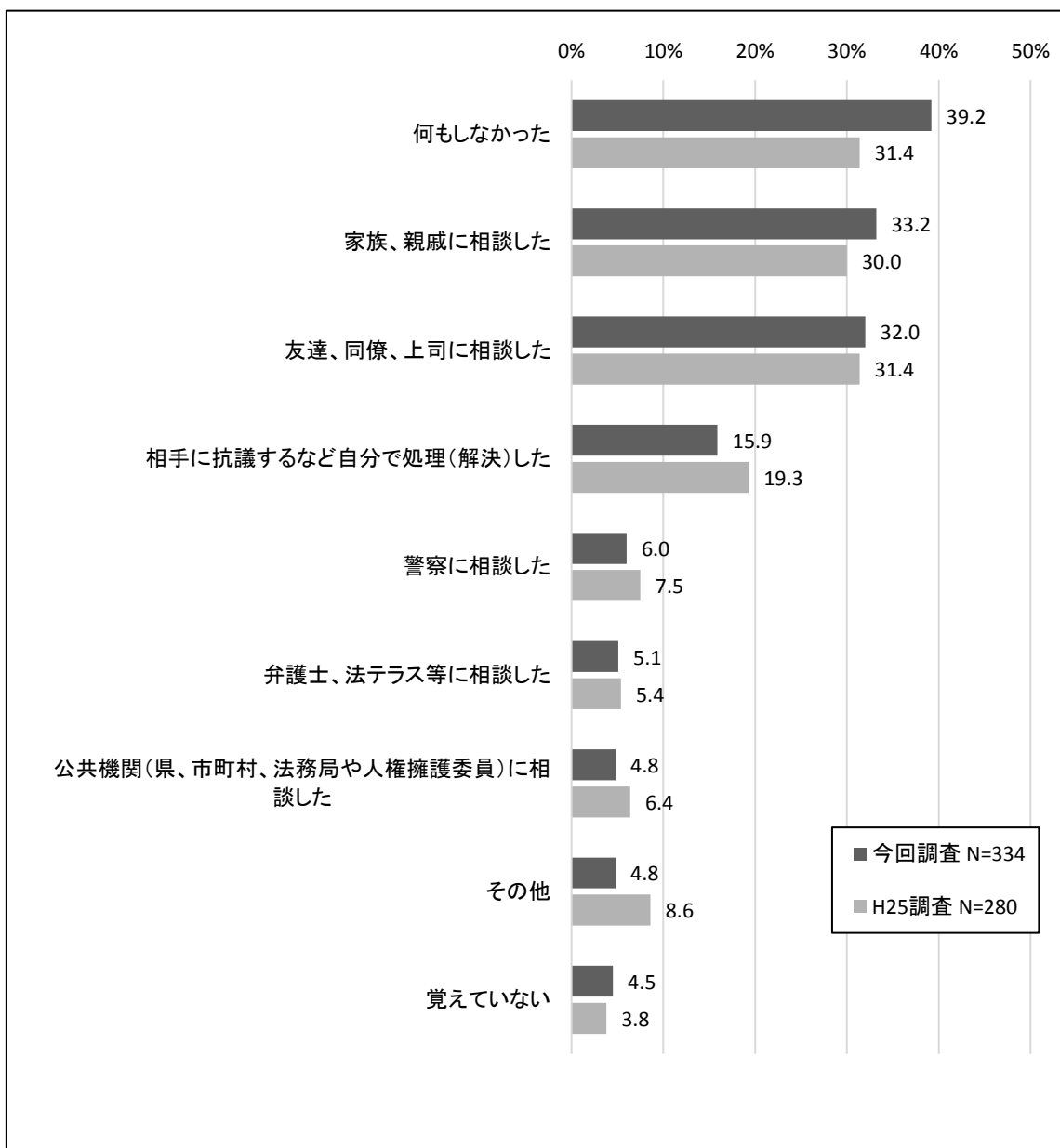


イ 人権侵害された時に行った対処方法

【問5-2】そのとき、どうされましたか。この中で該当するものを選んでください。

自分が人権侵害された時に行った対処方法については、「何もしなかった」が39.2%と最も高く、次いで「家族、親戚に相談した」が33.2%、「友達、同僚、上司に相談した」が32.0%となっている。

H25 調査と比較すると、「何もしなかった」が7.8ポイント、「家族、親戚に相談した」が3.2ポイント増加しており、一方で「相手に抗議するなど自分で処理(解決)した」が3.4ポイント、「公共機関(県、市町村、法務局や人権擁護委員)に相談した」が1.6ポイント、「警察に相談した」が1.5ポイント減少している。



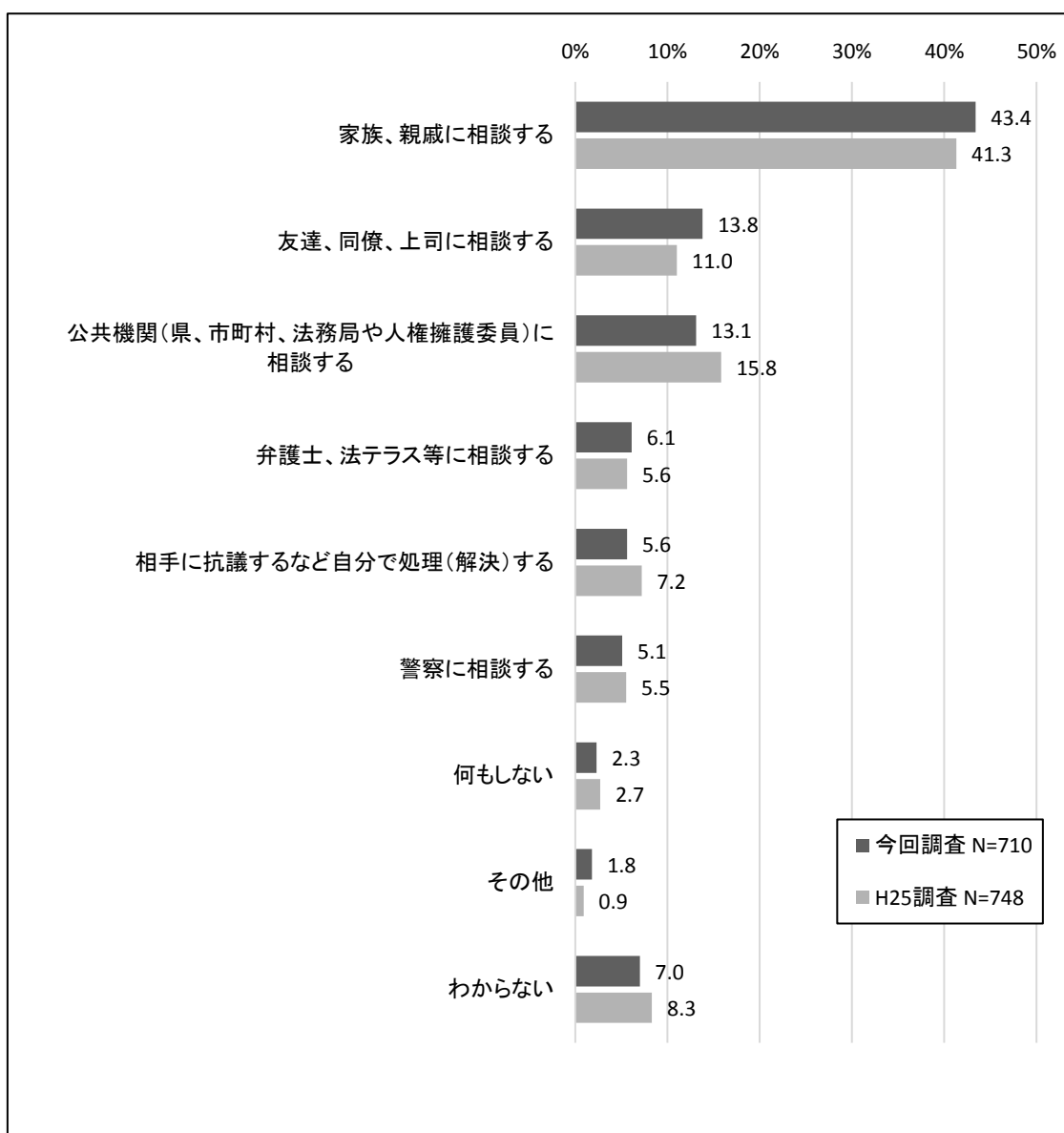
ウ 人権侵害された場合の対処方法

(問5で「2. ない」と答えた方にお聞きします。)

【問5-3】もし、あなたが、ご自分の人権を侵害されたと思われた場合、まずどのように対応されますか。この中から該当するものを選んでください。

もし、自分が人権侵害されたと想定した場合の対処方法については、「家族、親戚に相談する」が43.4%と最も高く、次いで「友達、同僚、上司に相談する」が13.8%、「公共機関（県、市町村、法務局や人権擁護委員）に相談する」が13.1%となっている。

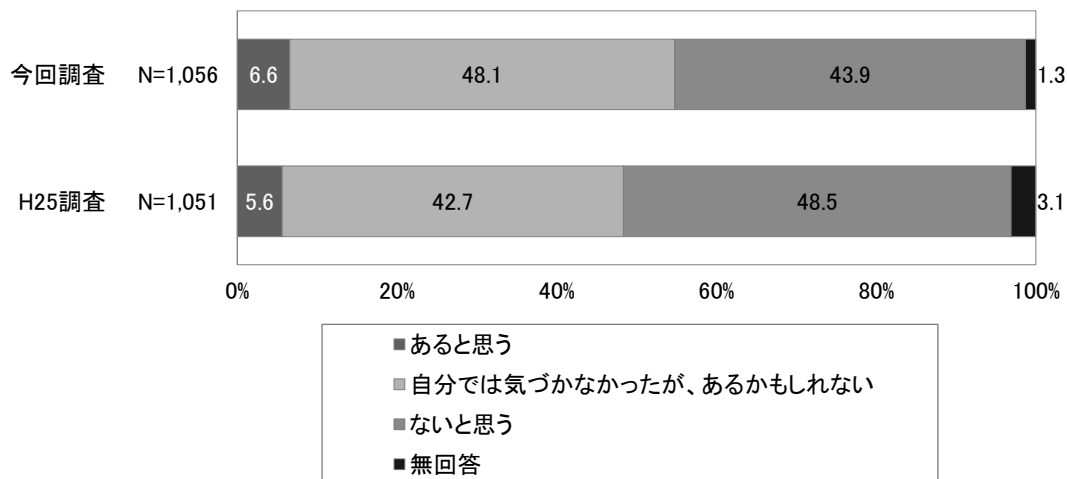
H25調査と比較すると、「友達、同僚、上司に相談する」が2.8ポイント増加し、一方で「公共機関（県、市町村、法務局や人権擁護委員）に相談する」が2.7ポイント減少している。



(6) 人権侵害の自覚

【問6】あなたは、今までに他人に対し、人権侵害をしたことがありますか。問5-1を参考にお答えください。

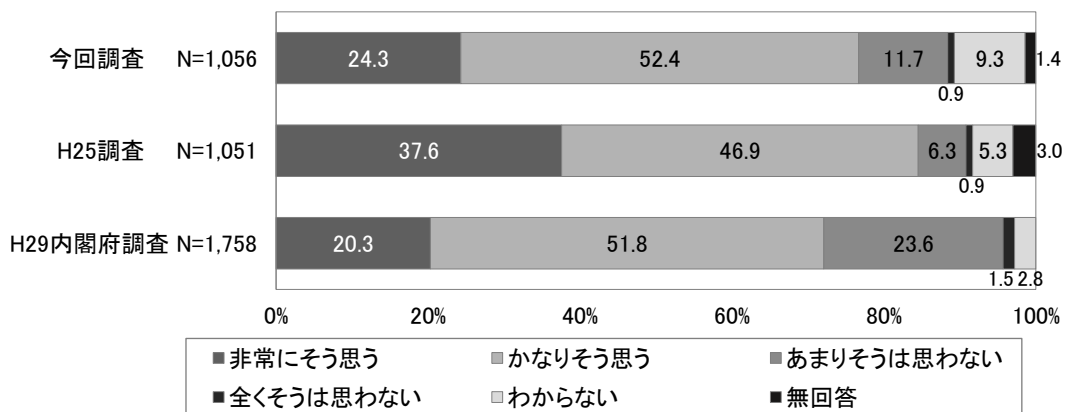
今までに他人に対して人権侵害をしたことがあるかについては、「あると思う」が6.6%、「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」が48.1%、「ないと思う」が43.9%となっている。



(7) 人権尊重と権利の主張による他人への迷惑について

【問7】「人権尊重が叫ばれる一方で、権利のみを主張して、他人の迷惑を考えない人が増えてきた」という意見について、あなたは、どう思いますか。

「人権尊重が叫ばれる一方で、権利のみを主張して、他人の迷惑を考えない人が増えてきた」という意見については、「そう思うとした割合」（「非常にそう思う」（24.3%）＋「かなりそう思う」（52.4%））が76.7%を占め、「そうは思わないとした割合」（「あまりそうは思わない」（11.7%）＋「全くそうは思わない」（0.9%））が12.6%、「わからない」が9.3%となっている。



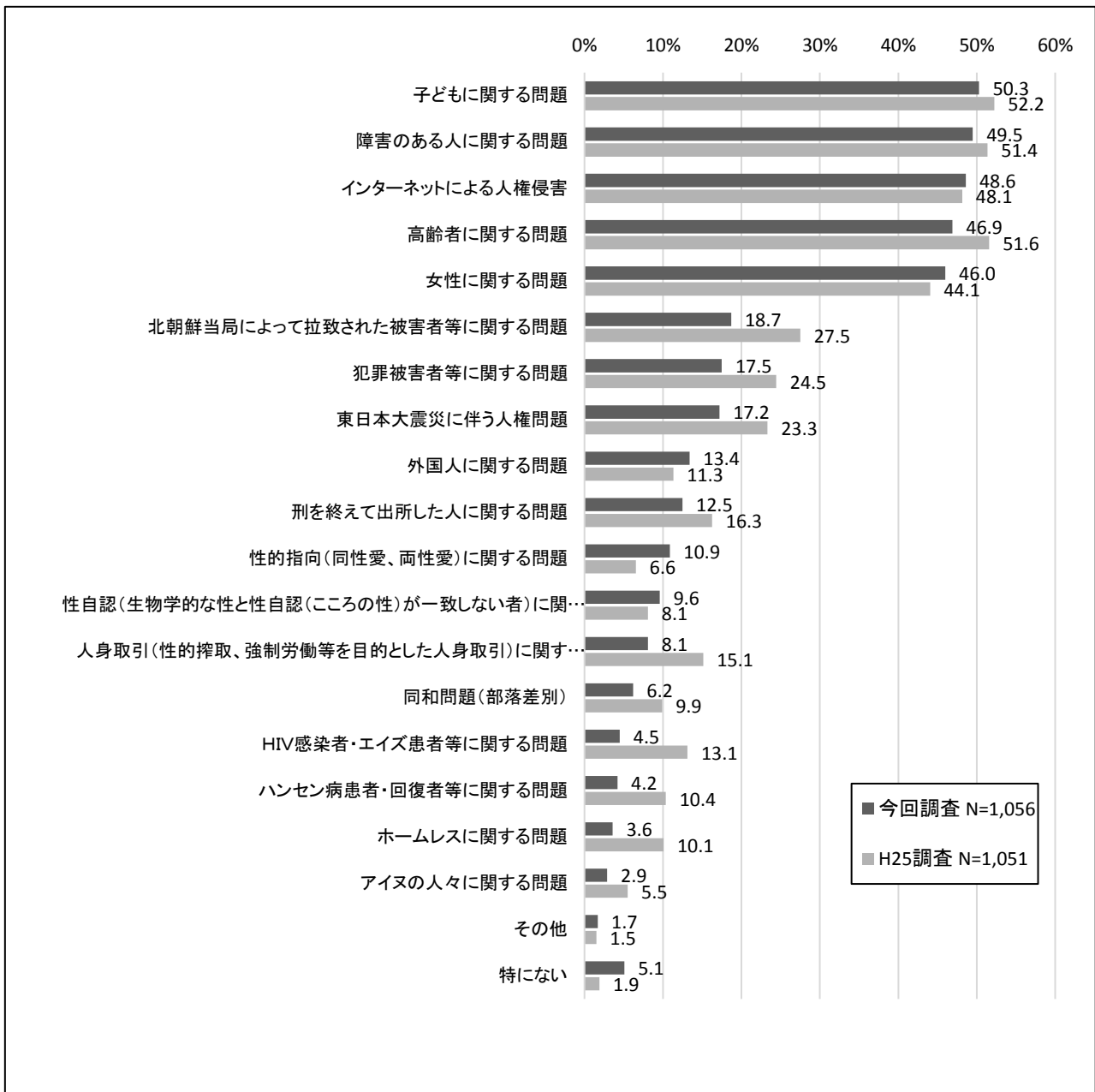
3 主な人権課題に関する意識について

(1) 人権課題に対する関心

【問8】日本の社会における人権問題について、あなたの関心があるものはどれですか。この中から選んでください。

人権課題に対する関心については、「子どもに関する問題」が50.3%と最も高く、次いで「障害のある人に関する問題」が49.5%、「インターネットによる人権侵害」が48.6%となっている。

H25調査と比較すると、「女性に関する問題」、「外国人に関する問題」、「性的指向（同性愛、両性愛）に関する問題」などが増加している。

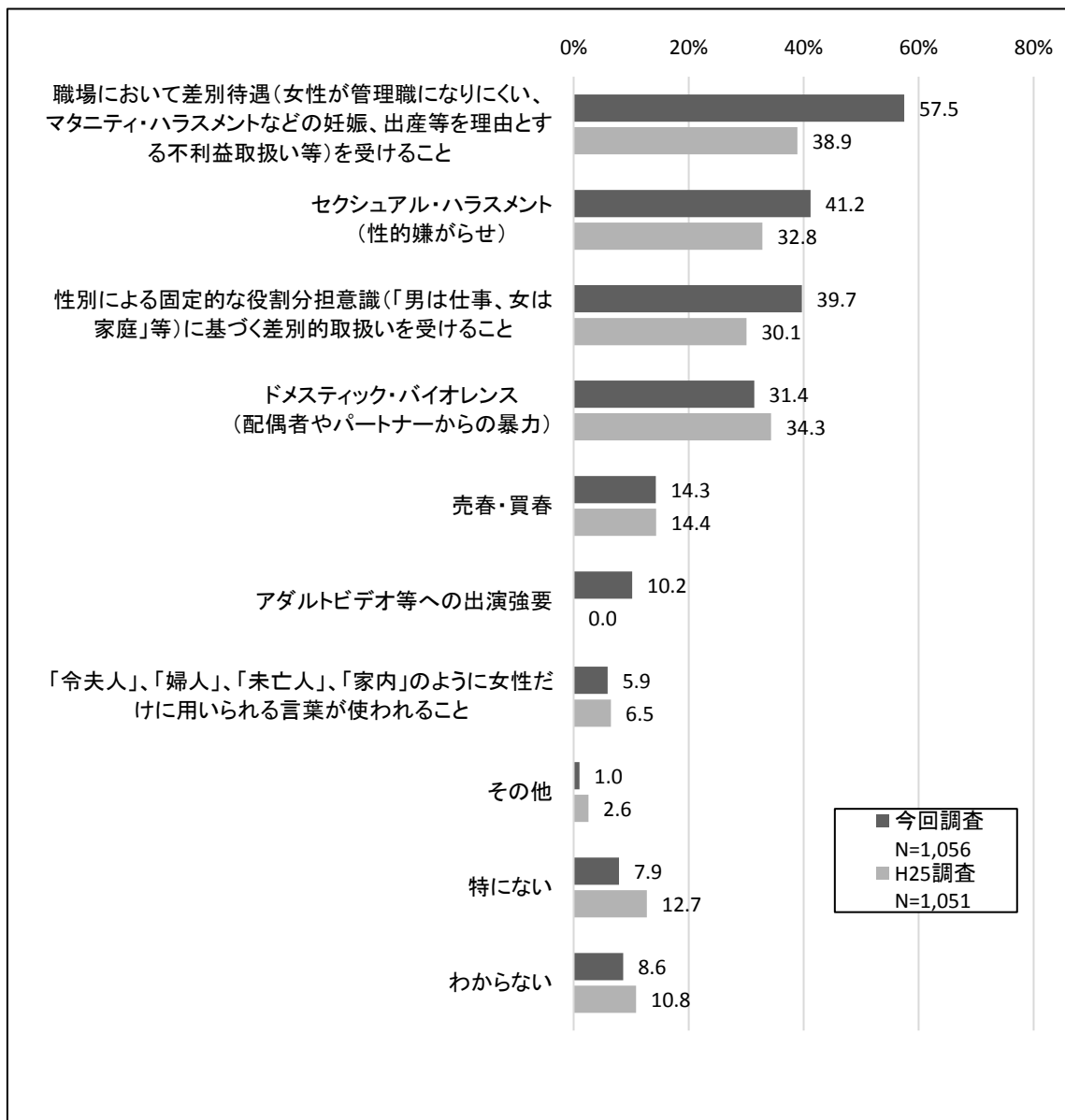


(2) 女性に関する人権問題

【問9】あなたは、女性に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中から該当するものを選んでください。

女性に関する人権問題については、「職場において差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等）を受けること」が57.5%と最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」が41.2%、「性別による固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」等）に基づく差別的取扱いを受けること」が39.7%となっている。

H25 調査と比較すると、「職場において差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等）を受けること」が、18.6ポイントと大幅に増加し、また、「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」、「性別による固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」等）に基づく差別的取扱いを受けること」も増加している。

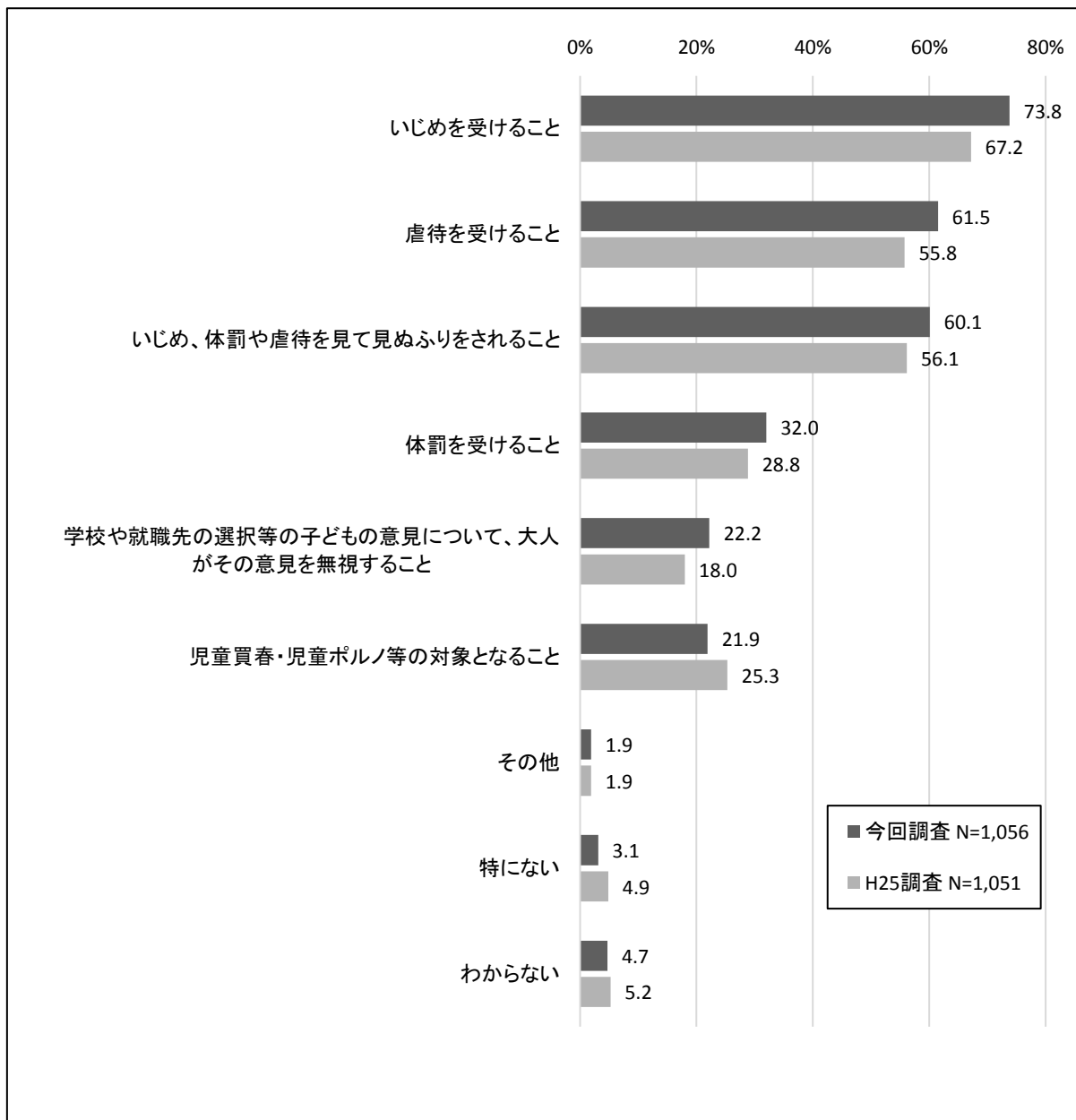


(3) 子どもに関する人権問題

【問10】あなたは、子どもに関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中から該当するものを選んでください。

子どもに関する人権問題については、「いじめを受けること」が73.8%と最も高く、次いで「虐待を受けること」が61.5%、「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをされること」が60.1%となっている。

H25 調査と比較すると、「いじめを受けること」が 6.6 ポイント、「虐待を受けること」が 5.7 ポイント、「学校や就職先の選択等の子どもの意見について、大人がその意見を無視すること」が 4.2 ポイント増加している。

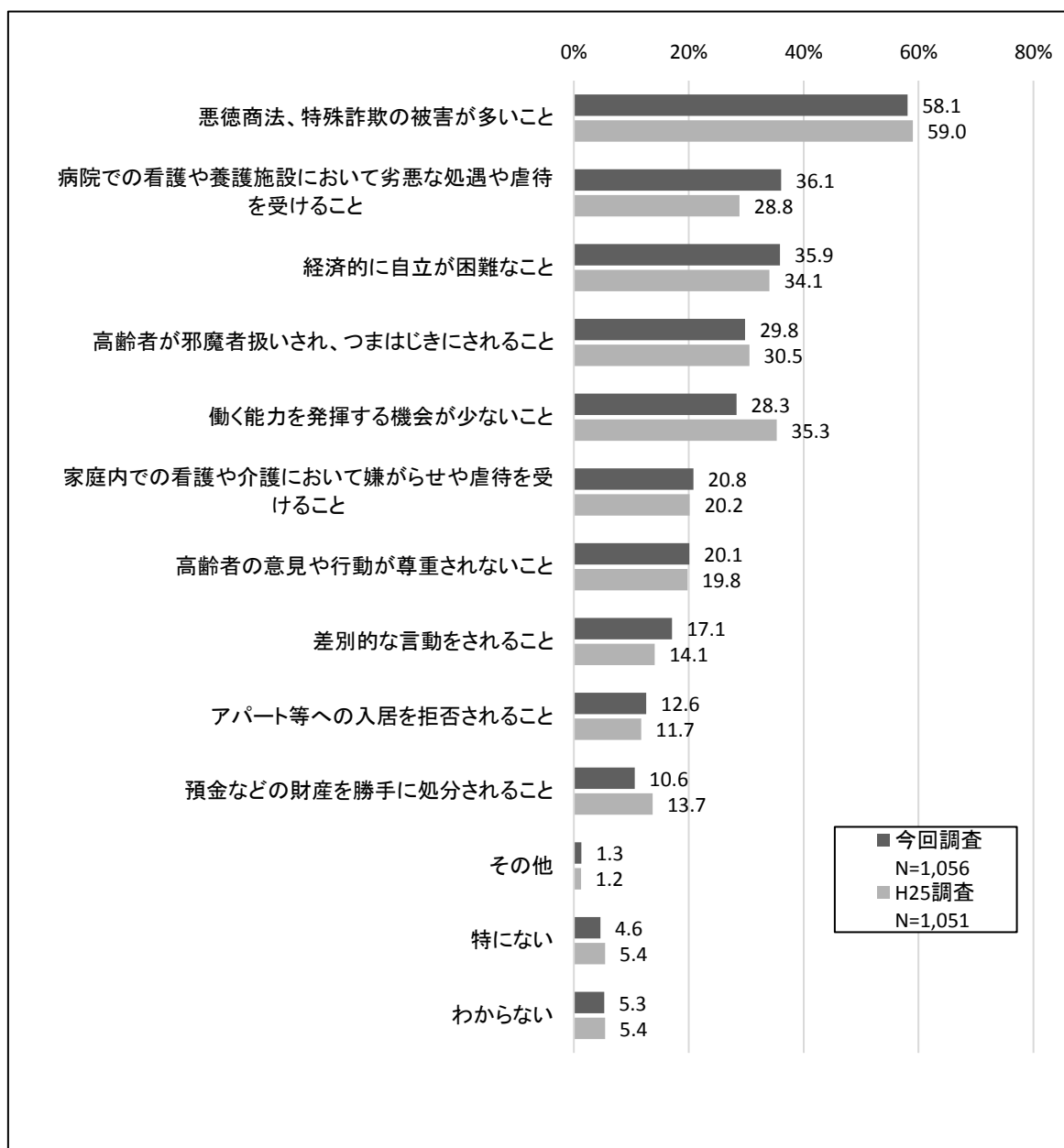


(4) 高齢者に関する人権問題

【問11】あなたは、高齢者に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中から該当するものを選んでください。

高齢者に関する人権問題については、「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと」が58.1%と最も高く、次いで「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」が36.1%、「経済的に自立が困難なこと」が35.9%となっている。

H25 調査と比較すると、「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」が7.3ポイント増加しており、一方で「働く能力を発揮する機会が少ないこと」が7.0ポイント減少している。

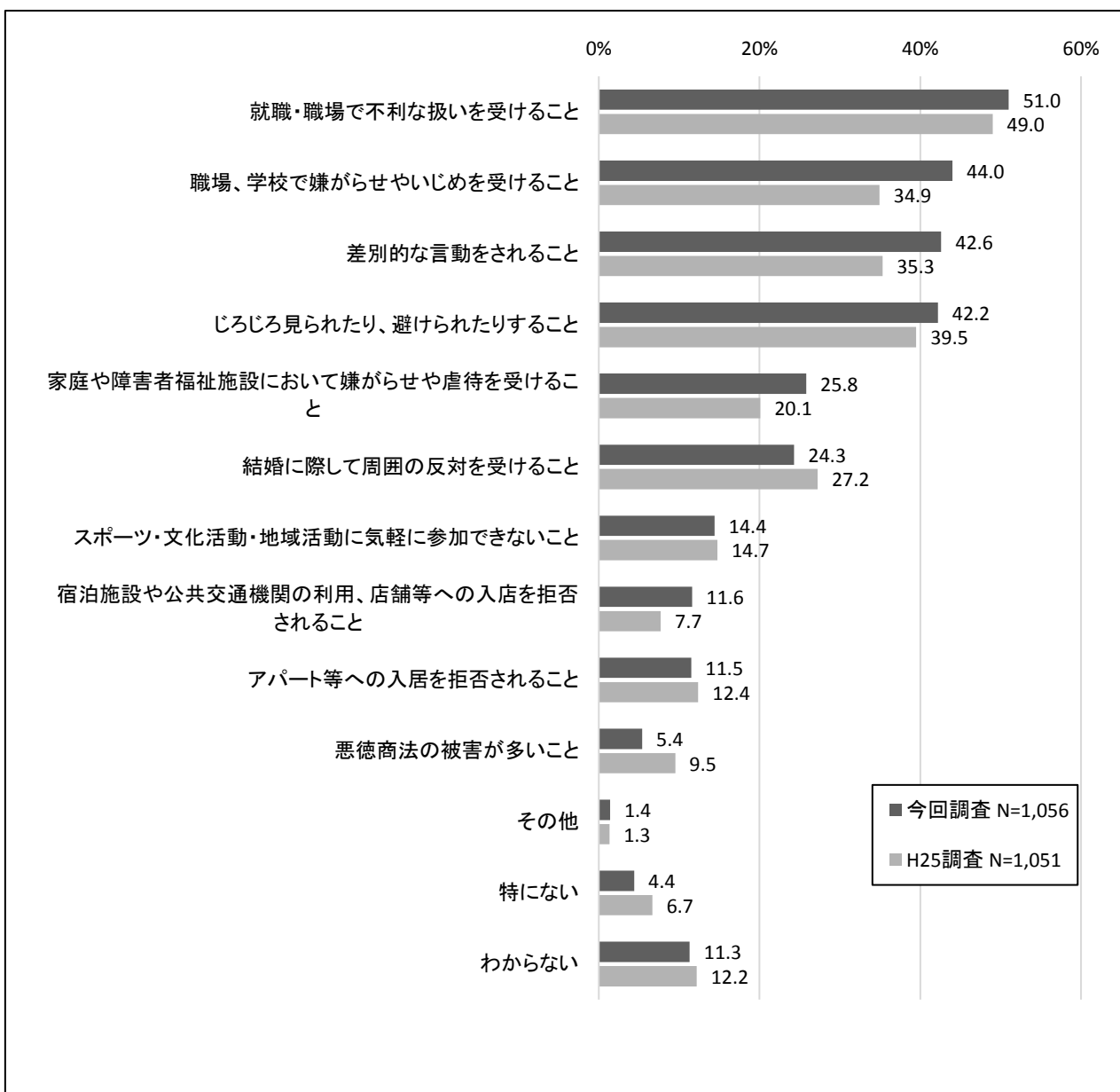


(5) 障害者に関する人権問題

【問12】あなたは、障害者に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中から該当するものを選んでください。

障害者に関する人権問題については、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が51.0%と最も高く、次いで「職場、学校で嫌がらせやいじめを受けること」が44.0%、「差別的な言動をされること」が42.6%となっている。

H25 調査と比較すると、「職場、学校で嫌がらせやいじめを受けること」が9.1ポイント、「差別的な言動をされること」が7.3ポイント、「家庭や障害者福祉施設において嫌がらせや虐待を受けること」が5.7ポイント増加している。

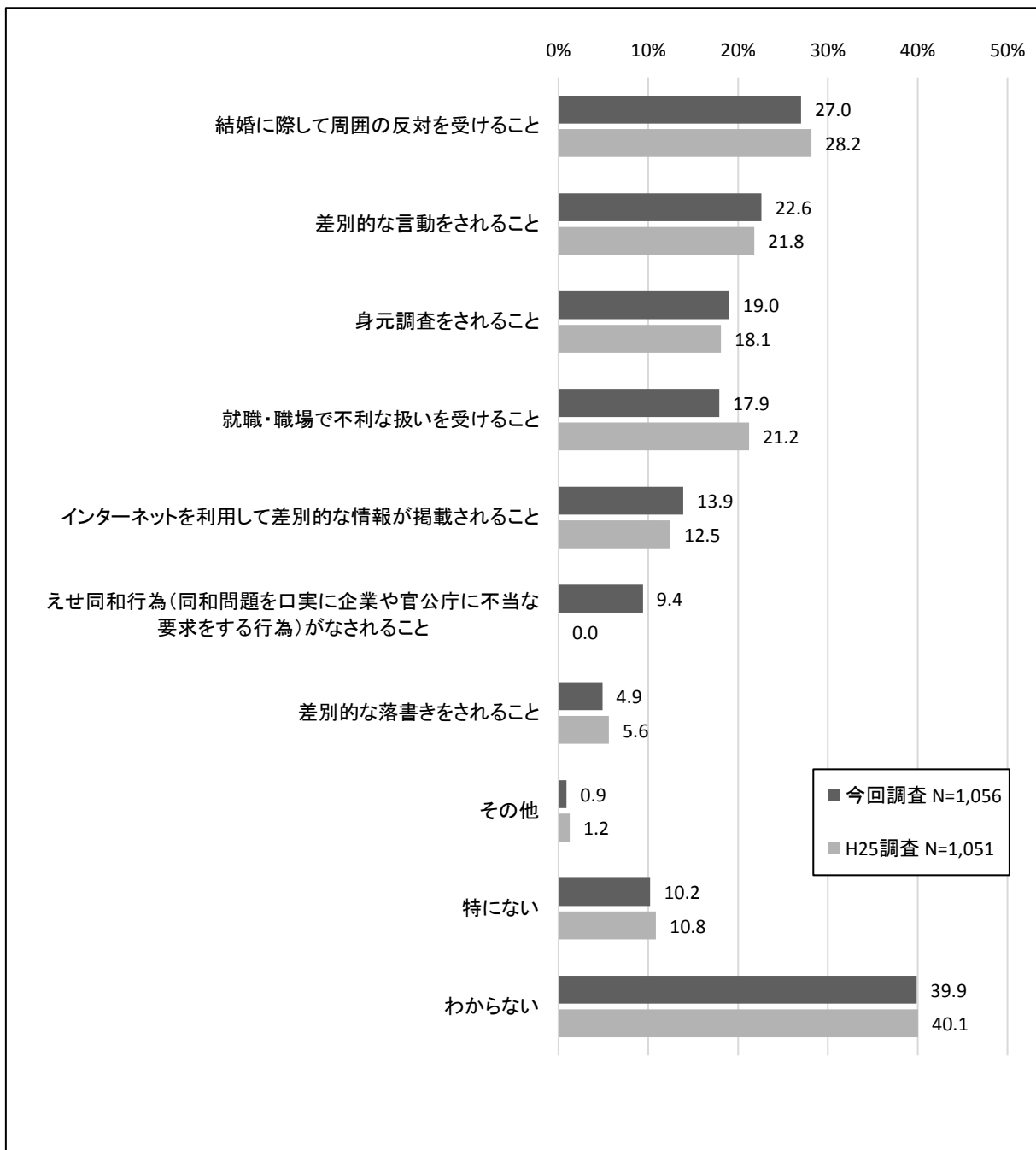


(6) 同和問題（部落差別）に関する人権問題

【問13】あなたは、同和問題（部落差別）に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中から該当するものを選んでください。

同和問題（部落差別）に関する人権問題については、「わからない」が39.9%となっており、「結婚に際して周囲の反対を受けること」が27.0%、「差別的な言動をされること」が22.6%となっている。

H25 調査と比較すると、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が 3.3 ポイント減少している。

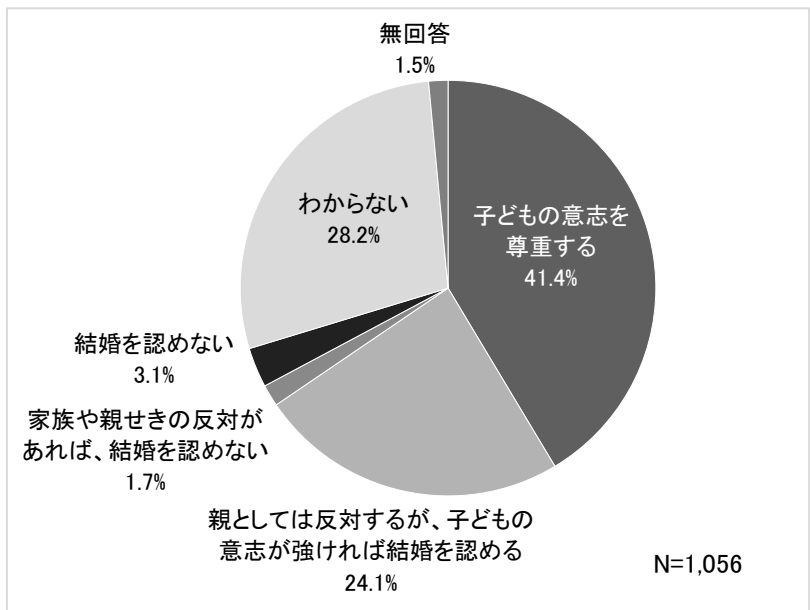


※H25 調査時は「えせ同和行為（同和問題を口実に企業や官公庁に不当な要求をする行為）がなされること」の選択肢なし。

(7) 自分子どもと同和地区（被差別部落）出身者との結婚

【問14】 仮に、あなたにお子さんがいて、そのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区（被差別部落）の出身の人であるとわかった場合、あなたはどうしますか。

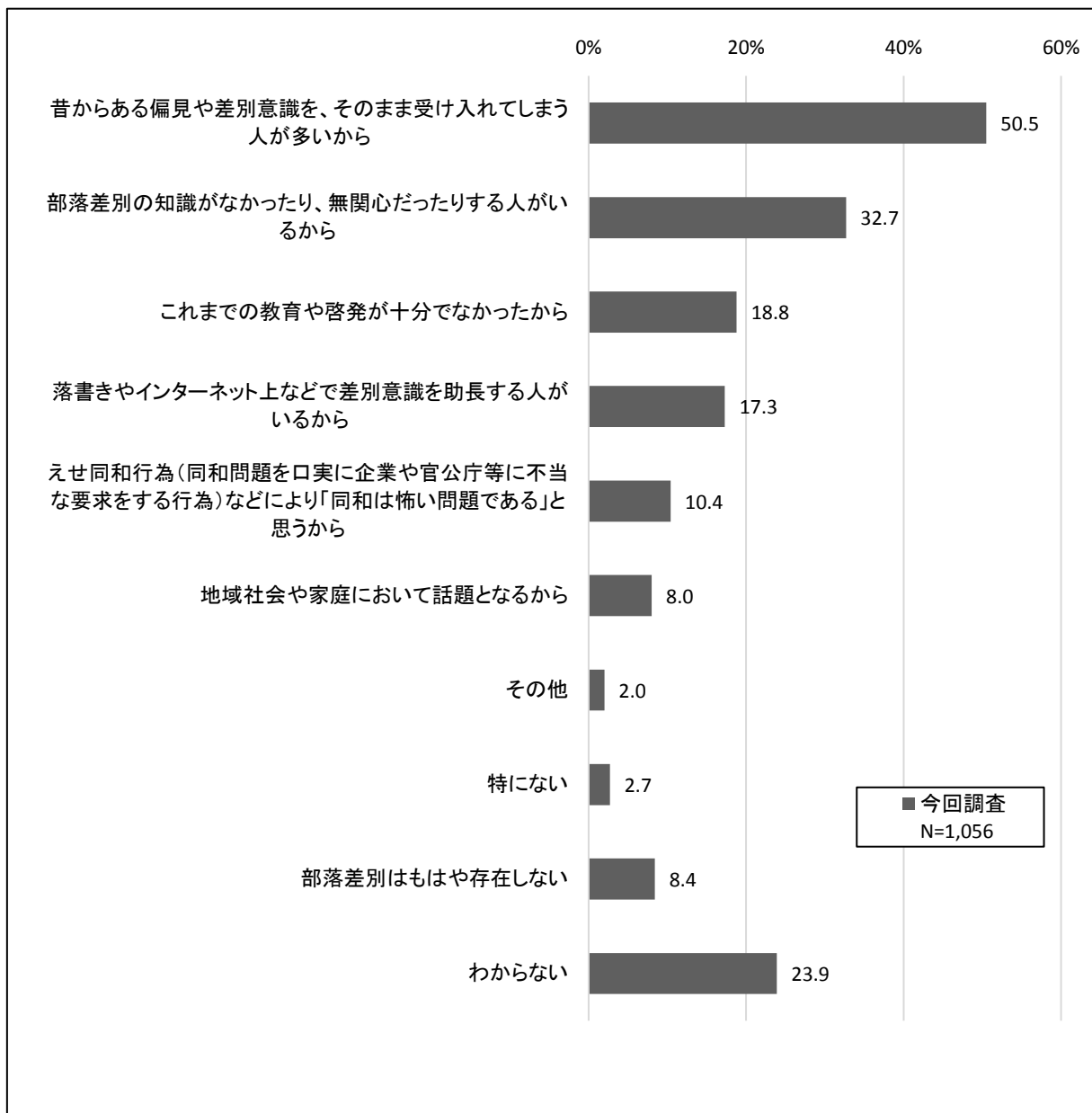
自分子どもと同和問題（部落差別）出身者との結婚については、「子どもの意志を尊重する」が41.4%と最も高く、次いで「わからない」が28.2%、「親としては反対するが、子どもの意志が強ければ結婚を認める」が24.1%となっている。



(8) 部落差別が存在する理由

【問15】 現在もなお、同和問題（部落差別）が存在するのは、なぜだと思いますか。この中から該当するものを選んでください。

部落差別が存在する理由については、「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」が50.5%と最も高く、次いで「部落差別の知識がなかったり、無関心だったりする人がいるから」が32.7%となっており、「わからない」が23.9%となっている。

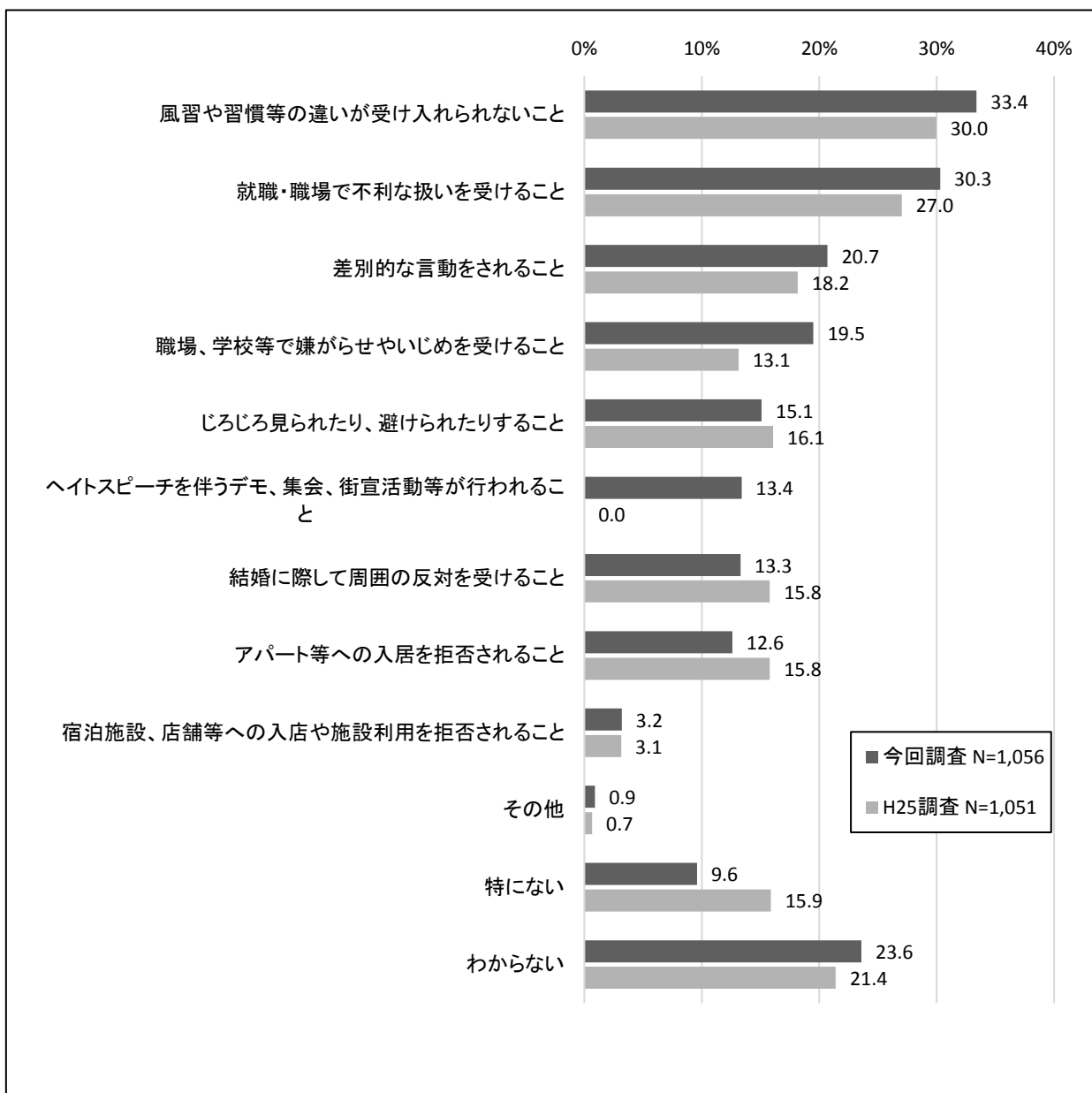


(9) 外国人に関する人権問題

【問16】あなたは、日本に居住している外国人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中から該当するものを選んでください。

外国人に関する人権問題については、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」が33.4%と最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」が30.3%、「差別的な言動をされること」が20.7%となっている。

H25調査と比較すると、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」、「就職・職場で不利な扱いを受けること」などが増加しており、一方で「アパート等への入居を拒否されること」、「結婚に際して周囲の反対を受けること」などが減少している。



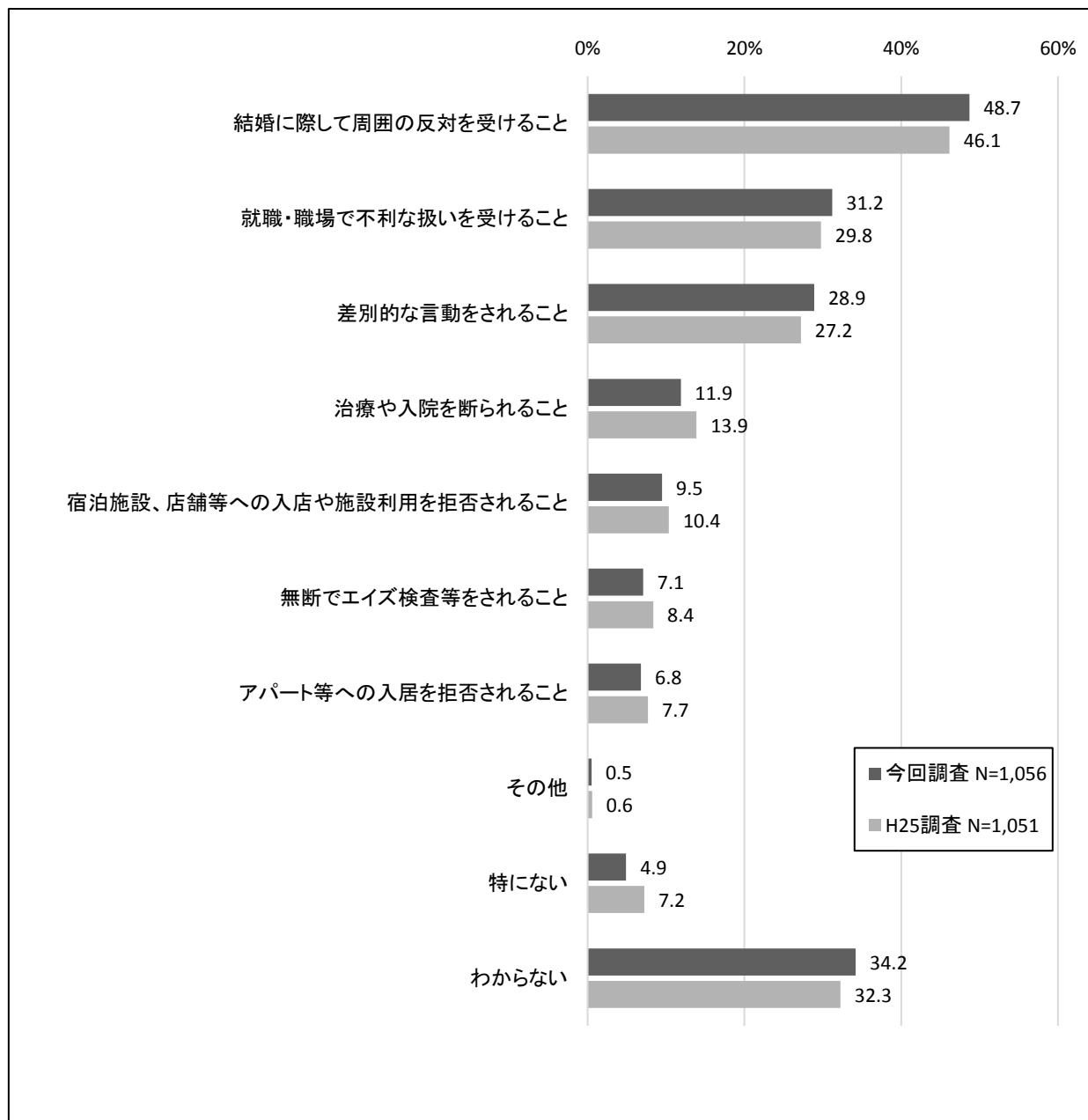
※H25 調査時は「ヘイトスピーチを伴うデモ、集会、街宣活動等が行われること」の選択肢なし。

(10) HIV感染者等に関する人権問題

【問17】あなたは、エイズ患者・HIV感染者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中からいくつでもあげてください。

HIV感染者等に関する人権問題については、「結婚に際して周囲の反対を受けること」が48.7%と最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」が31.2%、「差別的な言動をされること」が28.9%となっている。また、「わからない」が34.2%となっている。

H25調査と比較すると、あまり大きな差異はみられない。

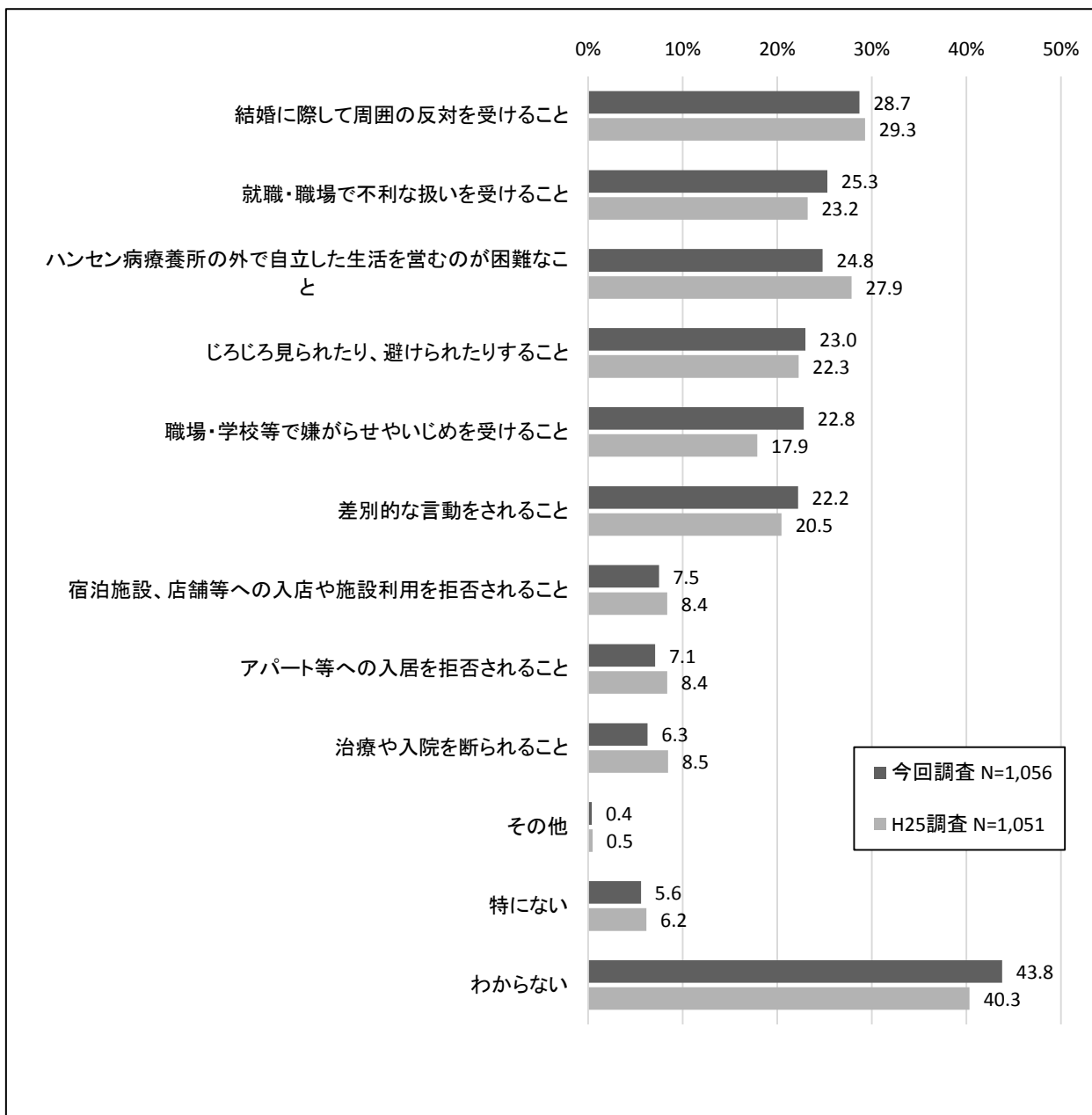


(11) ハンセン病患者等に関する人権問題

【問18】あなたは、ハンセン病患者・回復者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中からいくつでもあげてください。

ハンセン病患者等に関する人権問題については、「わからない」が43.8%となっており、「結婚に際して周囲の反対を受けること」が28.7%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が25.3%、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」が24.8%となっている。

H25調査と比較すると、あまり大きな差異はみられない。

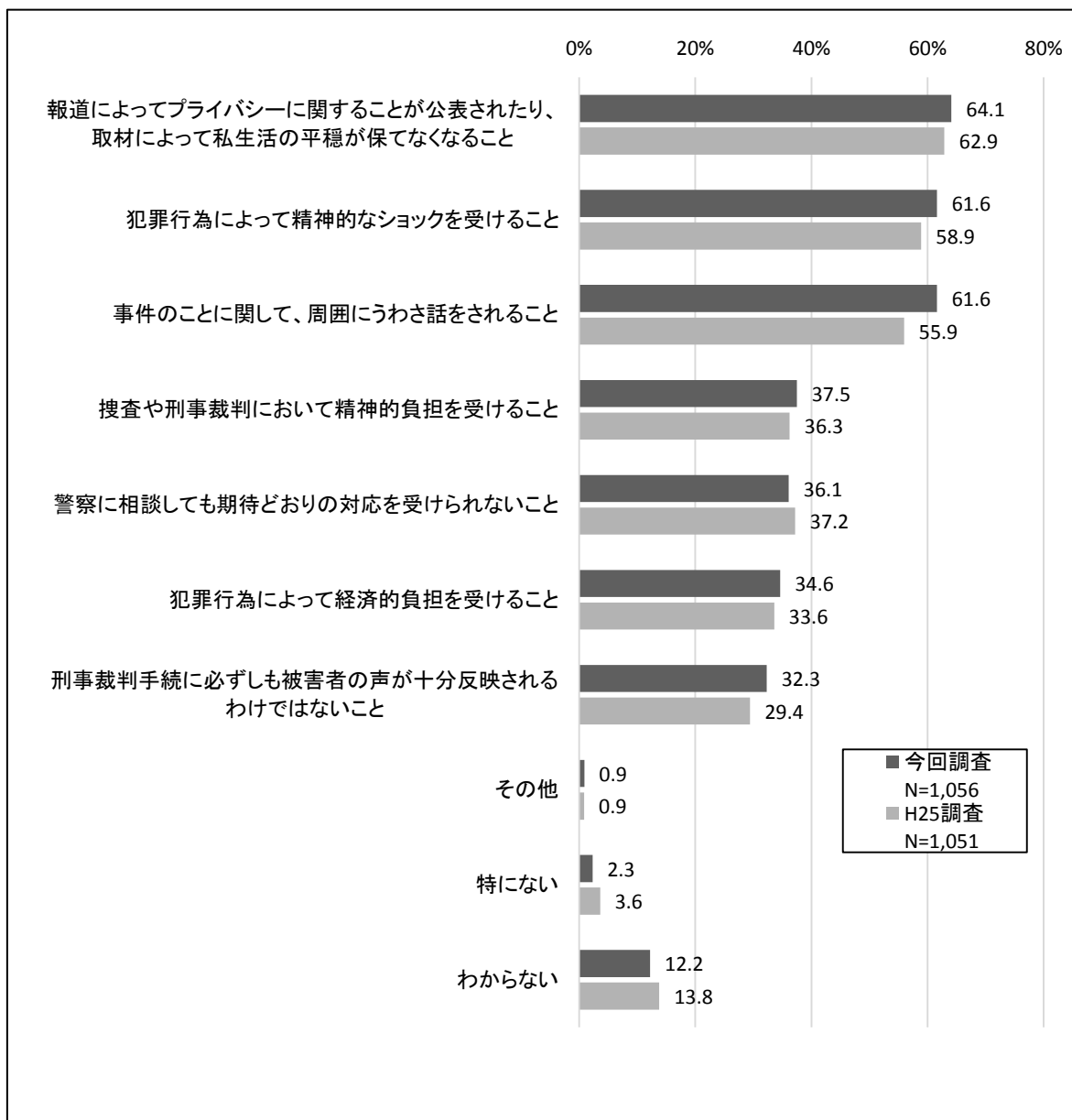


(12) 犯罪被害者等に関する人権問題

【問19】あなたは、犯罪被害者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中からいくつでもあげてください。

犯罪被害者等に関する人権問題については、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が64.1%と最も高く、次いで「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」と「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が61.6%となっている。

H25調査と比較すると、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が5.7ポイント増加している。

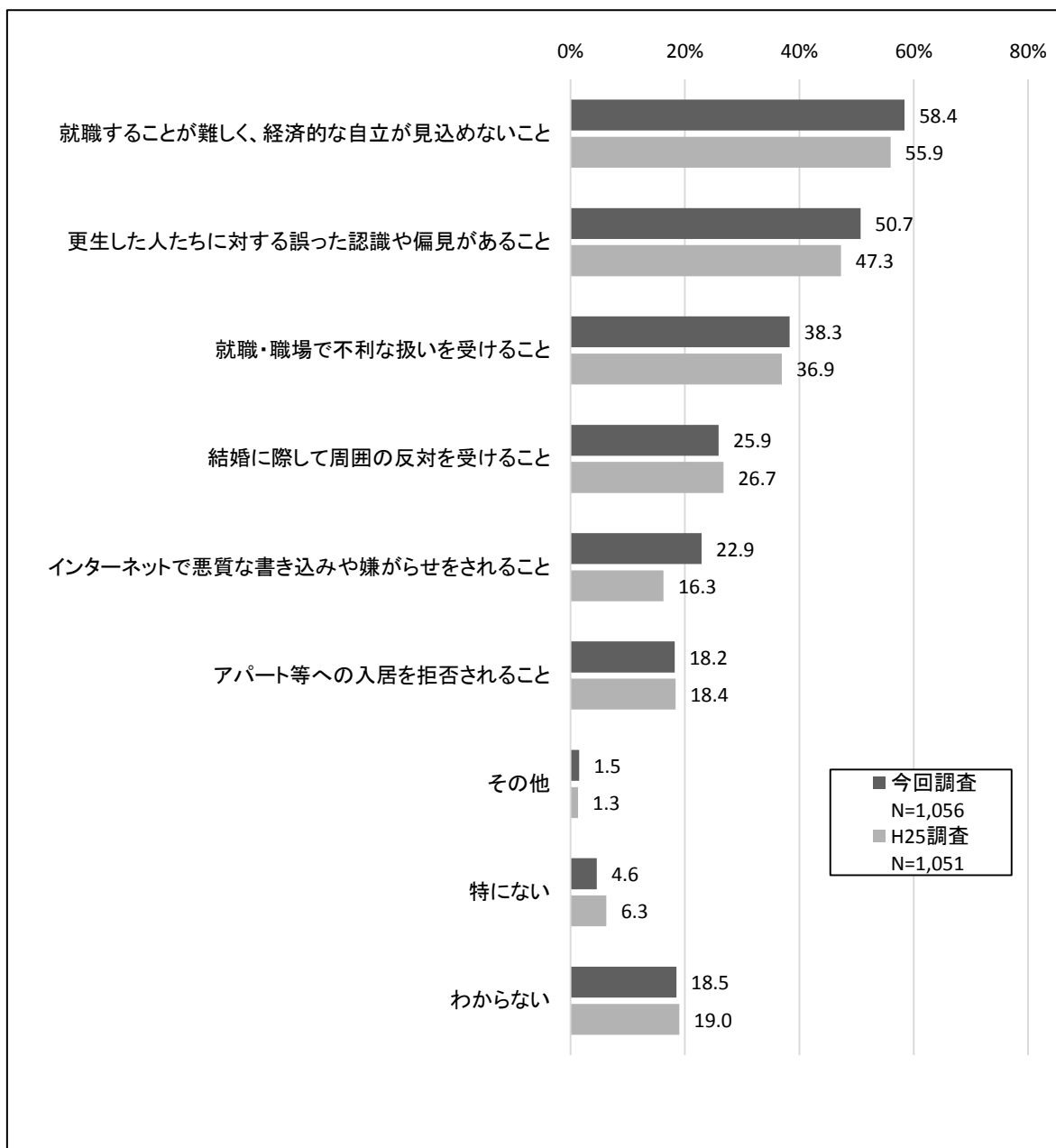


(13) 刑を終えて出所した人に関する人権問題

【問20】あなたは、刑を終えて出所した人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中からいくつかもあげてください。

刑を終えて出所した人に関する人権問題については、「就職することが難しく、経済的な自立が見込めないこと」が58.4%と最も高く、次いで「更生した人たちに対する誤った認識や偏見があること」が50.7%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が38.3%となっている。

H25調査と比較すると、「インターネットで悪質な書き込みや嫌がらせをされること」が6.6ポイント増加している。

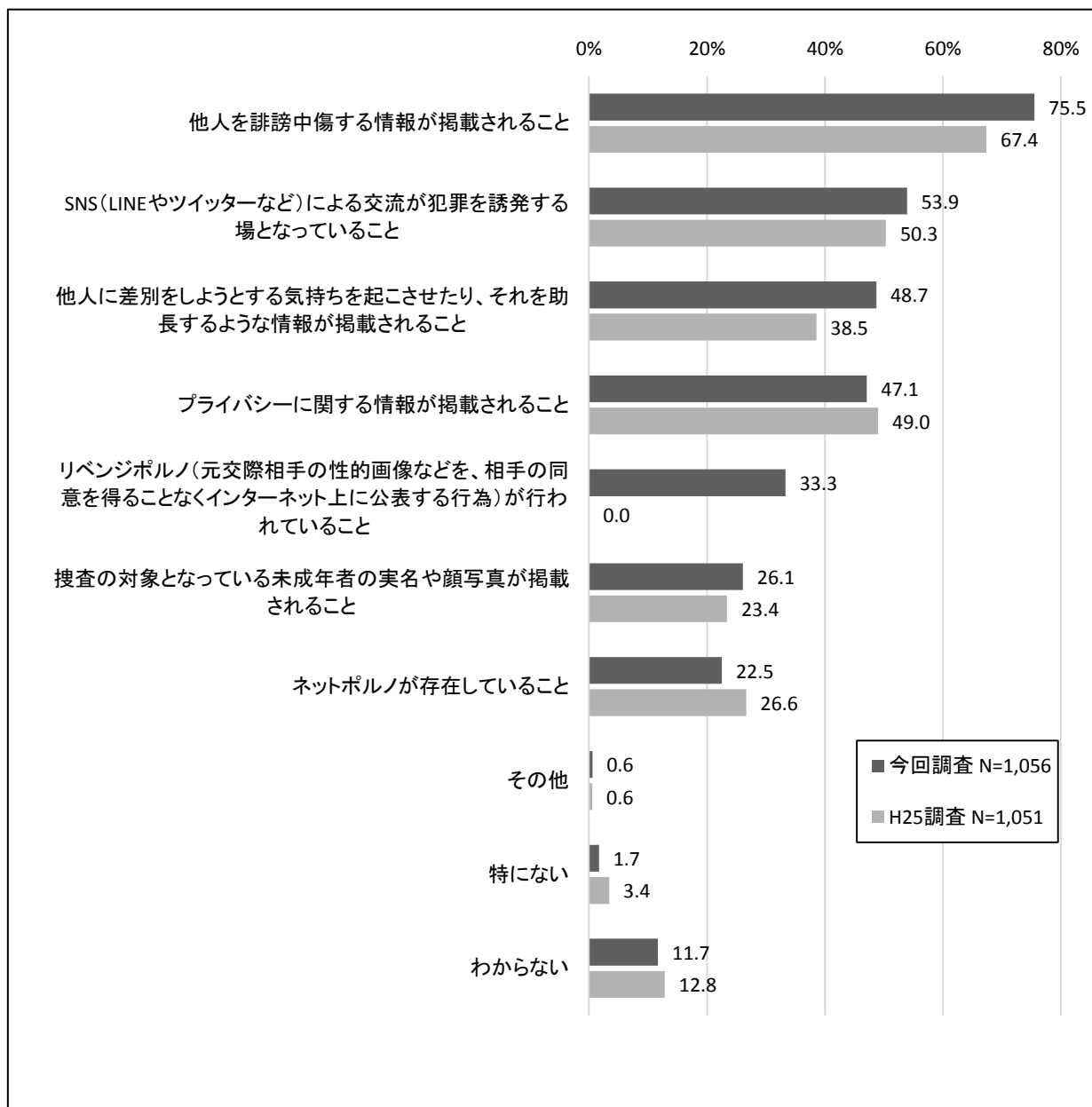


(14) インターネットによる人権侵害に関する人権問題

【問21】あなたは、インターネットによる人権侵害として、現在、どのような問題が起きていると思いますか。この中から該当するものを選んでください。

インターネットによる人権侵害については、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が75.5%と最も高く、次いで「SNS（LINEやツイッターなど）による交流が犯罪を誘発する場となっていること」が53.9%、「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」が48.7%となっている。

H25調査と比較すると、「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」が10.2ポイント、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が8.1ポイント増加している。

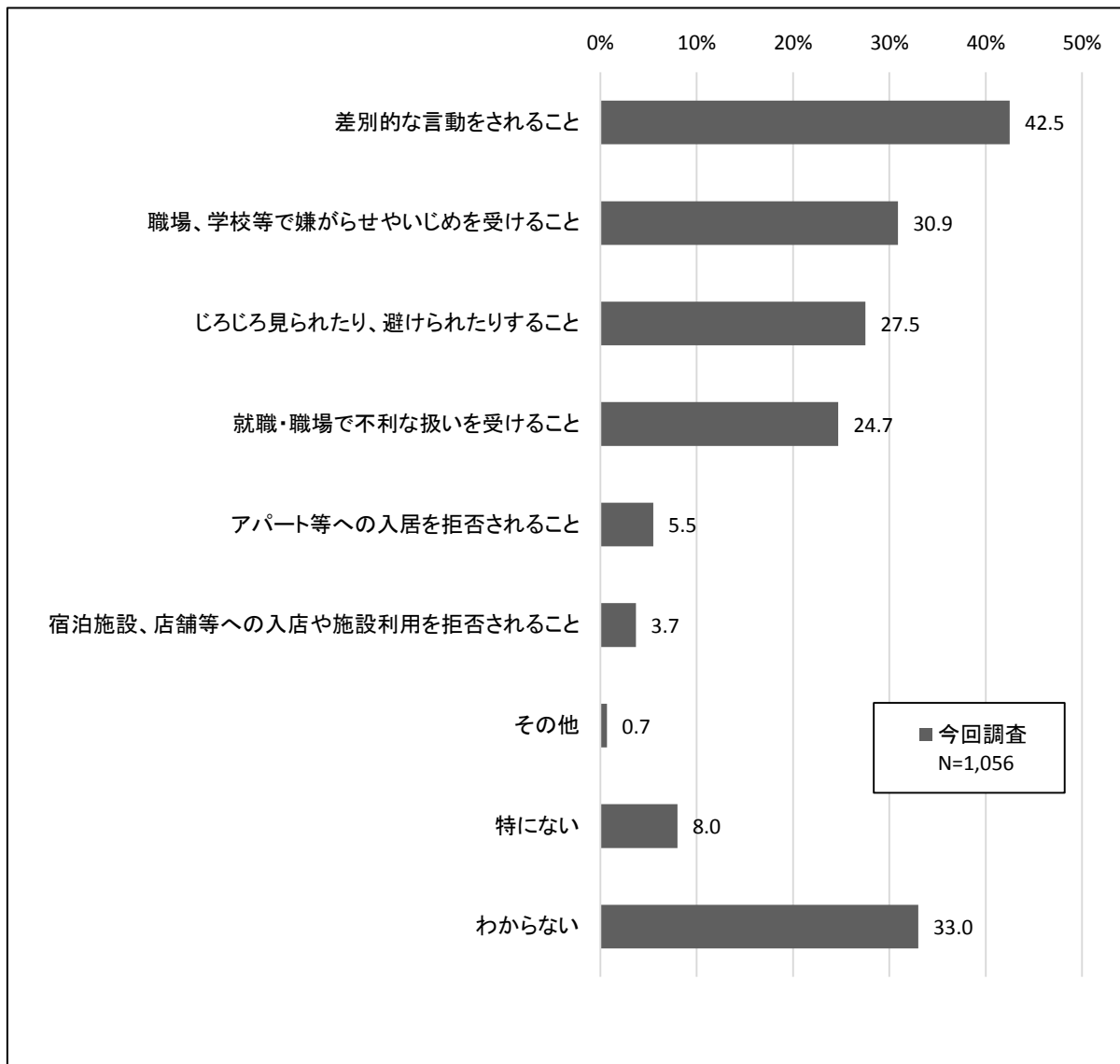


※H25 調査は「リベンジポルノが行われていること」の選択肢なし。

(15) 性的指向に関する人権問題

【問22】あなたは、同性愛、両性愛といった性的指向を持つ人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中から該当するものを選んでください。

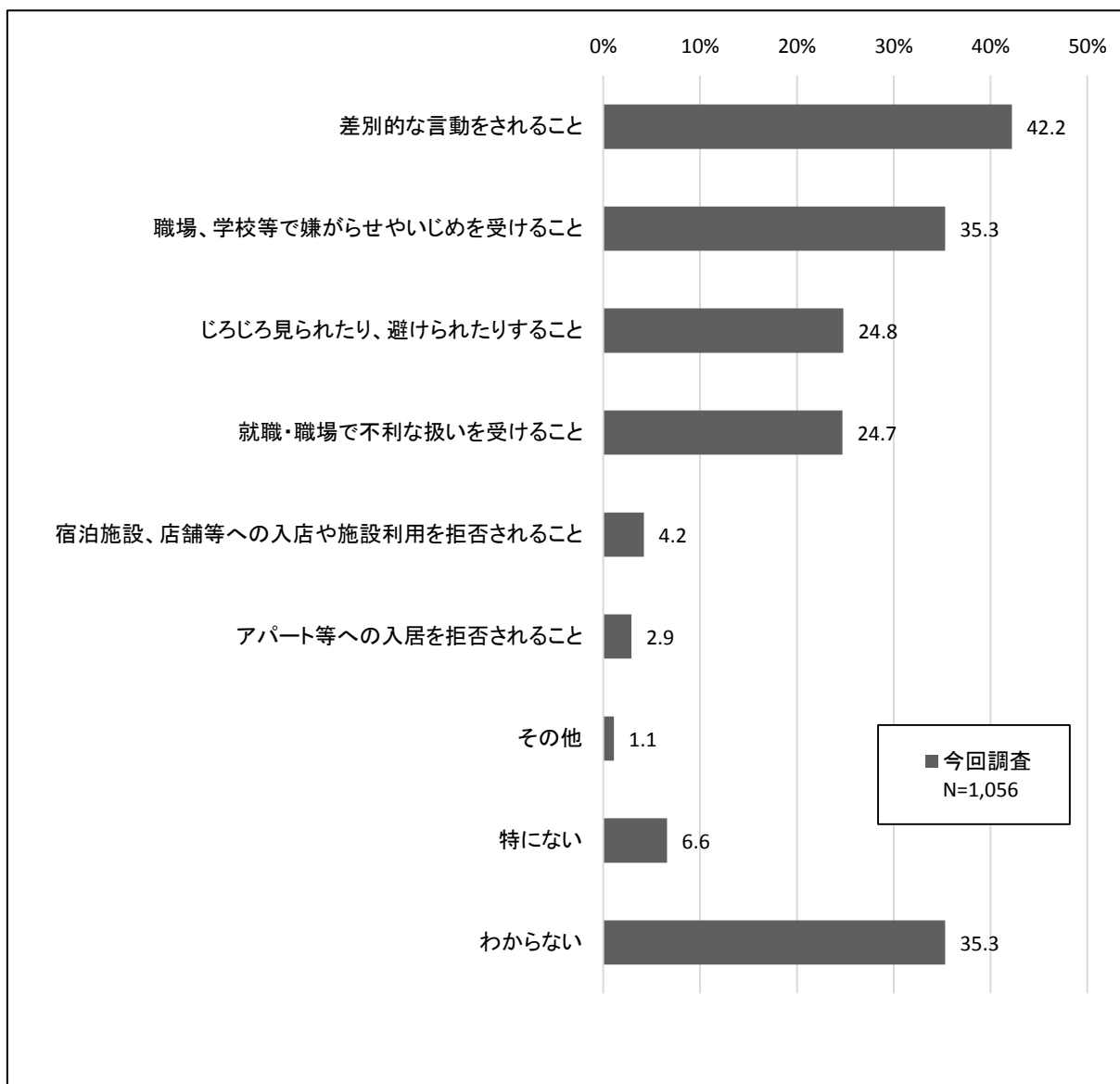
性的指向に関する人権問題については、「差別的な言動をされること」が42.5%と最も高く、次いで「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が30.9%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が27.5%となっている。また、「わからない」が33.0%となっている。



(16) 性同一性障害者に関する人権問題

【問23】あなたは、生物学的な性（からだの性）と自認する性（こころの性）が一致しない人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中から該当するものを選んでください。

性同一性障害者に関する人権問題については、「差別的な言動をされること」が42.2%と最も高く、次いで「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が35.3%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が24.8%となっている。また、「わからない」が35.3%となっている。



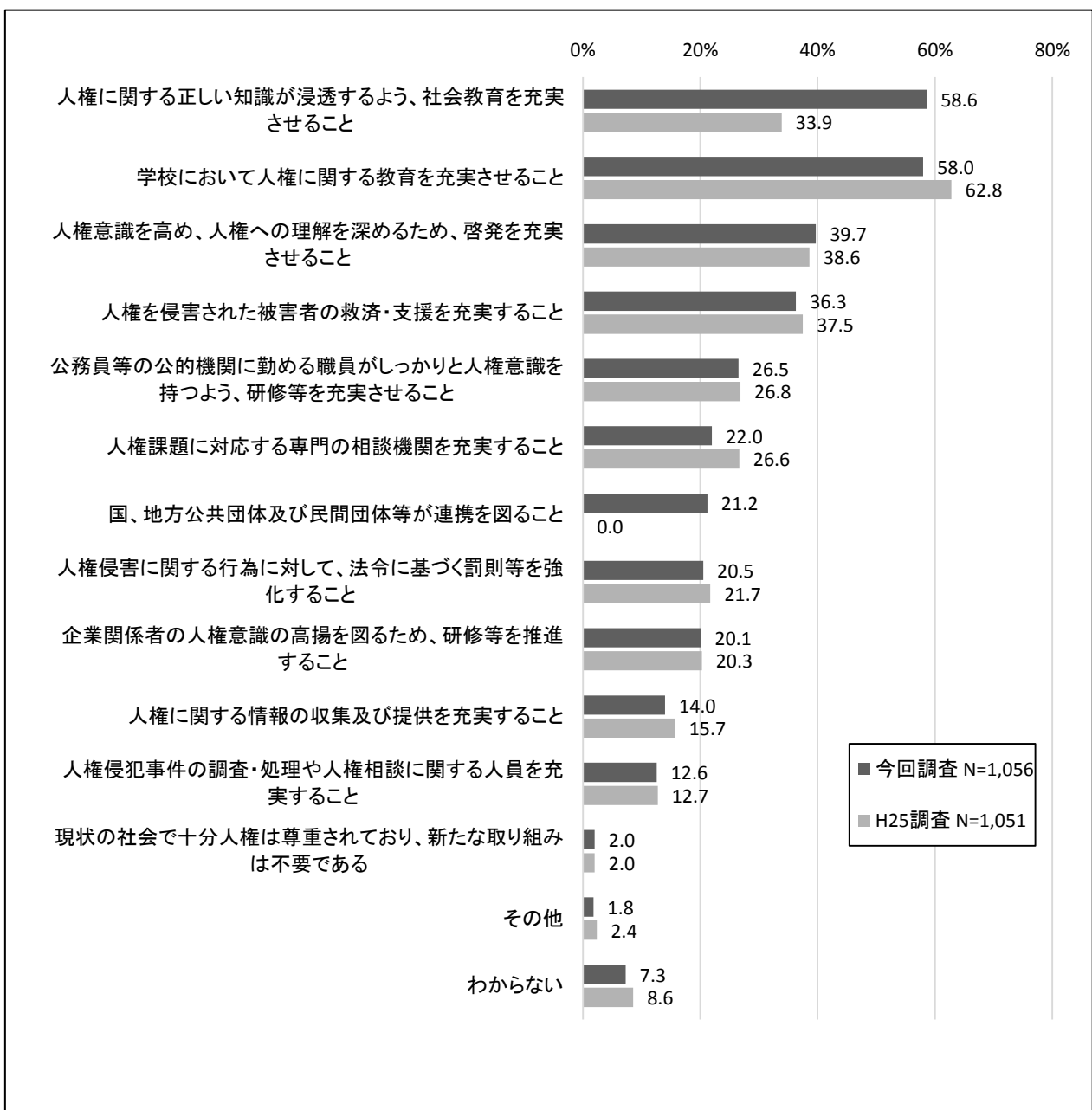
4 人権擁護に関する啓発活動等について

(1) 人権課題の解決のための方策

【問24】あなたは、人権問題の解決に向けて、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。この中から該当するものを選んでください。

人権課題の解決のための方策については、「人権に関する正しい知識が浸透するよう、社会教育を充実させること」が58.6%と最も高く、次いで「学校において人権に関する教育を充実させること」が58.0%、「人権意識を高め、人権への理解を深めるため、啓発を充実させること」が39.7%となっている。

H25 調査と比較すると、「人権に関する正しい知識が浸透するよう、社会教育を充実させること」が 24.7 ポイントと大幅に増加している。



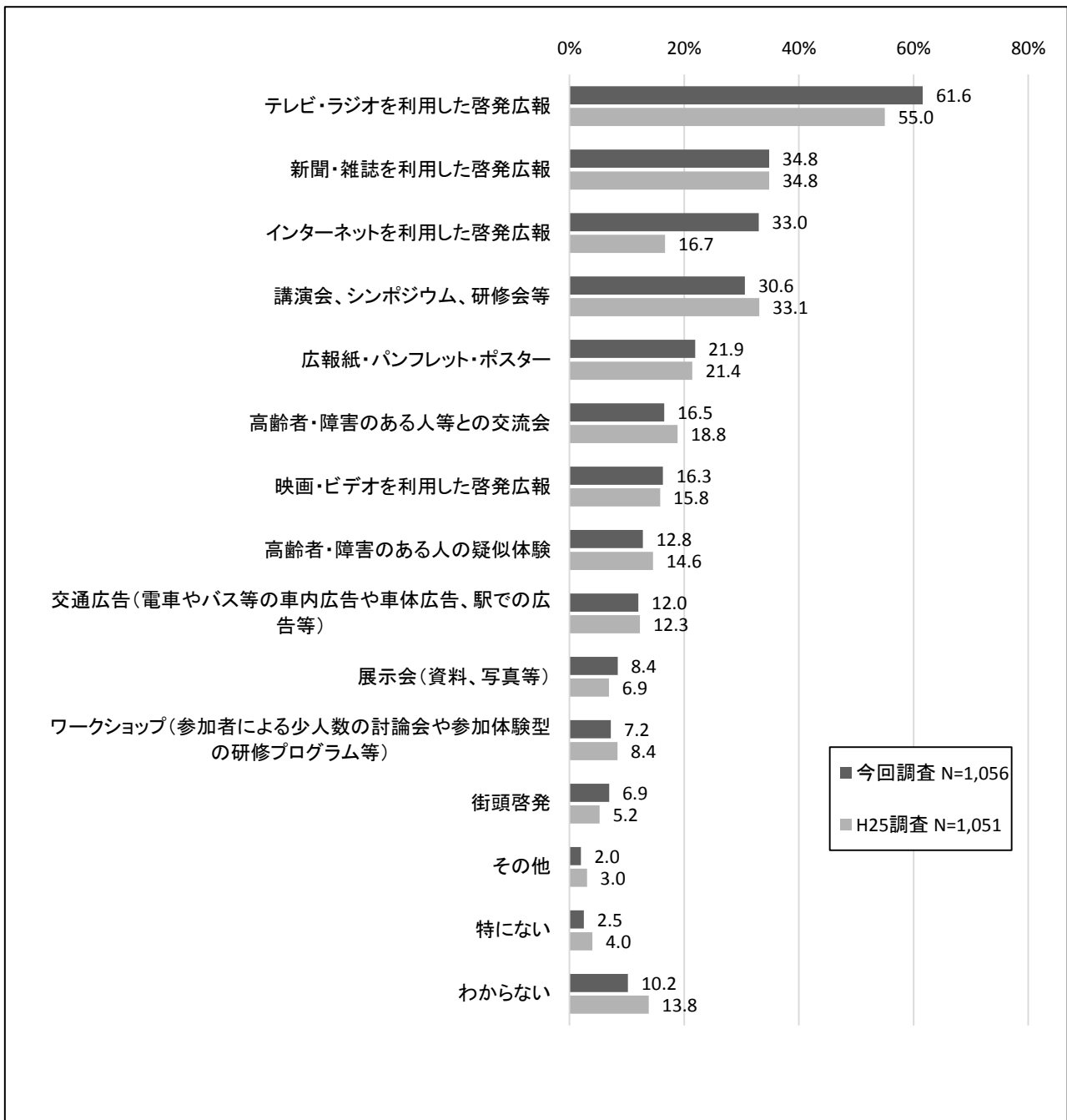
※H25 調査は「国、地方公共団体及び民間団体等が連携を図ること」の選択肢なし。

(2) 効果的な啓発広報活動

【問25】あなたは、人権啓発を推進するためには、どのような方法による啓発広報活動が効果的であると思いますか。この中から該当するものを選んでください。

人権啓発を推進するための効果的な啓発広報活動については、「テレビ・ラジオを利用した啓発広報」が61.6%と最も高く、次いで「新聞・雑誌を利用した啓発広報」が34.8%、「インターネットを利用した啓発広報」が33.0%となっている。

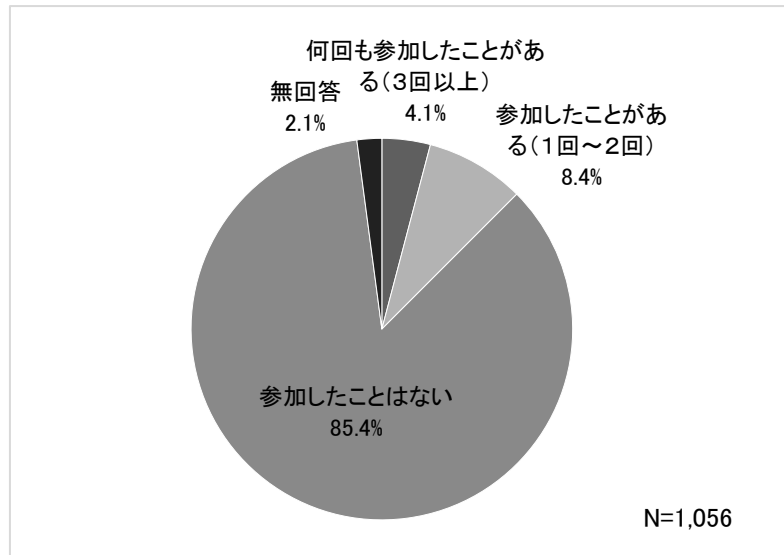
H25調査と比較すると、「インターネットを利用した啓発広報」が16.3ポイント増加している。



(3) 講演会、研修会への参加経験

【問26】あなたは、今までに国・県・市町村など行政が実施する人権に関する講演会、研修会に参加したことがありますか。この中から選んでください。

講演会、研修会への参加経験については、「参加したことはない」が85.4%と大半を占めており、「参加したことがある割合」（「何回も参加したことがある（3回以上）」（4.1%）+「参加したことがある（1回～2回）」（8.4%））は12.5%となっている。

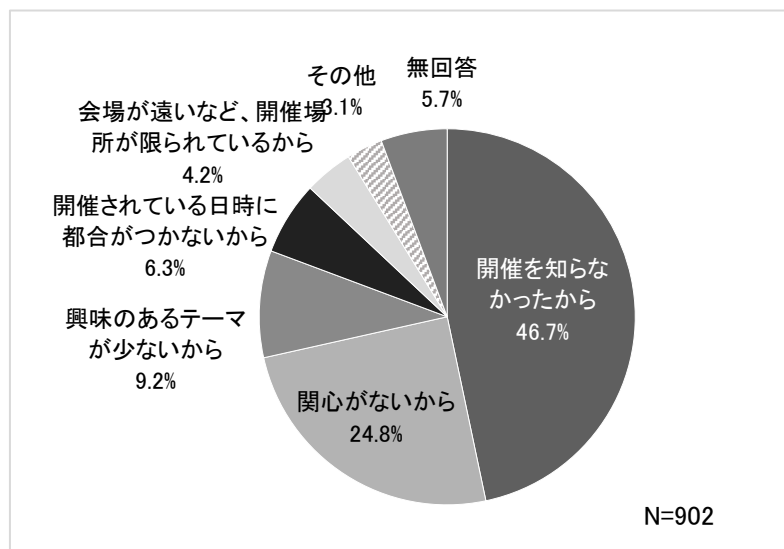


(4) 講演会、研修会に参加したことがない理由

(問26で「3. 参加したことはない」と答えた方にお聞きします。)

【問26-1】講演会、研修会に参加したことがないのはどうしてですか。この中から選んでください。

講演会、研修会に参加したことがない理由については、「開催を知らなかったから」が46.7%と最も高く、次いで「関心がないから」が24.8%、「興味のあるテーマが少ないから」が9.2%となっている。

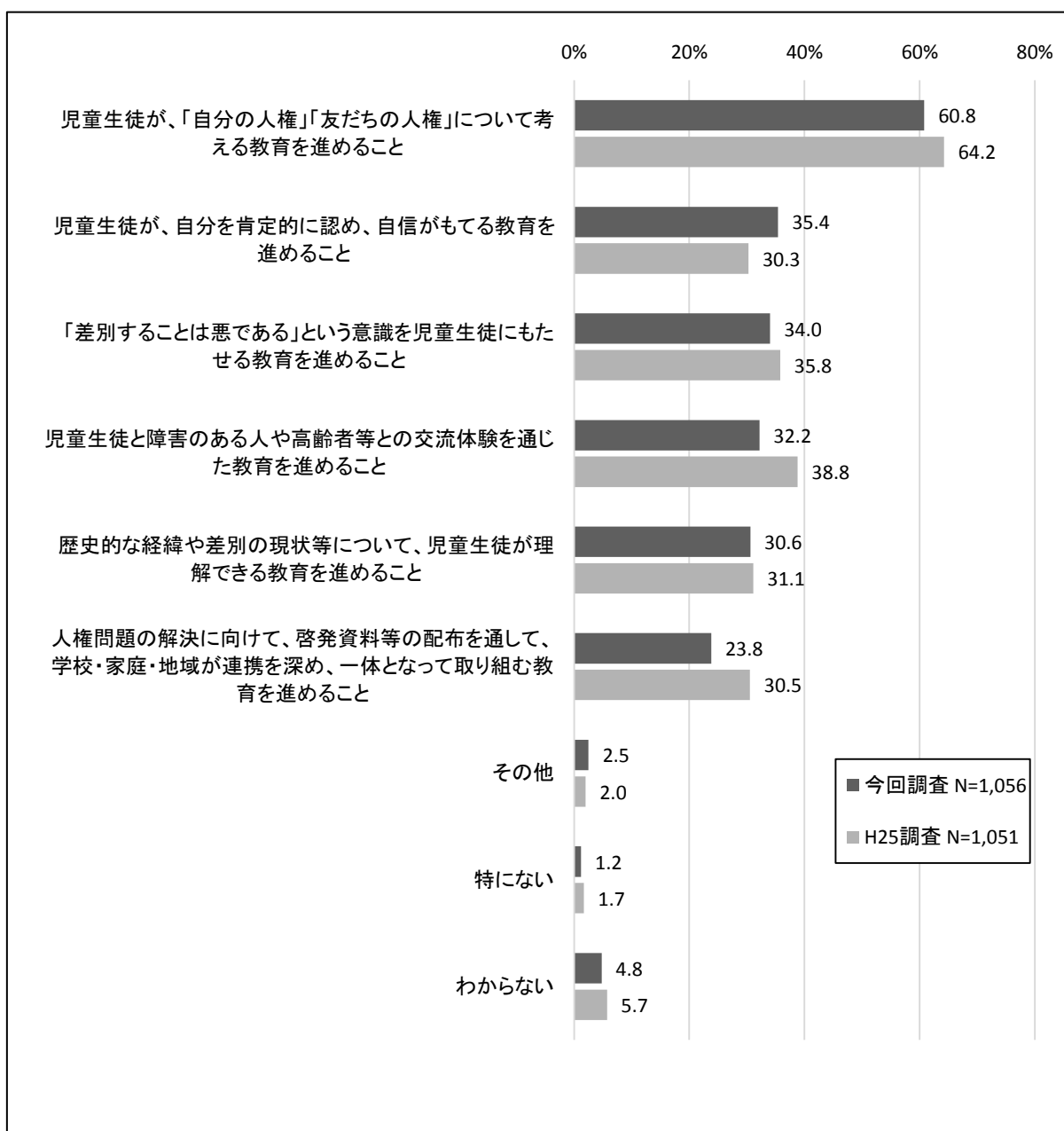


(5) 人権を尊重する心や態度を育むための学校教育

【問27】あなたは、人権を尊重する心や態度を育むためには、学校等においてどのような教育を大切にすればよいと思いますか。この中から該当するものを選んでください。

人権を尊重する心や態度を育むための学校教育については、「児童生徒が、「自分の人権」「友だちの人権」について考える教育を進めること」が60.8%と最も高く、次いで「児童生徒が、自分を肯定的に認め、自信がもてる教育を進めること」が35.4%、「「差別することは悪である」という意識を児童生徒にもたせる教育を進めること」が34.0%となっている。

H25調査と比較すると、「児童生徒が、自分を肯定的に認め、自信がもてる教育を進めること」が5.1ポイント増加している。



人権に関する県民意識調査報告書（概要版）

令和元年6月 発行

富山県生活環境文化部県民生活課

〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号

TEL 076-444-9646

FAX 076-444-3477